

2013年1月7日

公益財団法人がん研究会と がん情報の普及啓発に向けた包括的連携に関する協定を締結

アフラック(アメリカンファミリー生命保険会社、日本における代表者・社長:外池 徹)は、2013年1月1日、公益財団法人がん研究会(理事長:草刈 隆郎、以下がん研究会)と、<がん情報の普及啓発に向けた包括連携に関する協定>を締結しました。本協定の概要は、以下の通りです。

◆ <がん情報の普及啓発に向けた包括連携に関する協定>概要

【 目 的 】

がん研究会及びアフラックは、相互に連携・協力して、がん研究会によるがんに関する情報提供と普及に向けた取り組み、アフラックの「がん・医療」をテーマとした独自の市民啓発イベントや全国に広がる支社・販売代理店網、さらに、自治体との連携に基づくネットワークを活用することで、広く国民に対するがんに関する情報の提供を行い、国民のがんに関する意識の向上を図りながら「がんと向き合う社会」を目指す。それにより、全国のがん患者とその家族の不安と苦痛の軽減及び療養生活の質の向上を実現する。

【主な取り組み】

- がん啓発ツールの制作・配布
- 地域社会へのがん啓発

がん研究会は、1908(明治41)年に設立された日本で最初のがん専門機関です。1934(昭和9)年、研究所と附属病院を設置し、本格的な研究を開始。以来、基礎研究・臨床研究とが一体となった活動により、日本のがん研究と診療をリードしています。特に、近年の研究所の研究活動はめざましく、先に米国の科学専門誌「サイエンス」が行った“日本の科学”と題する特集の中で、がん研究所は生物科学の分野で世界的にトップのレベルにあるとの評価を得ています。

当社は2012年8月、独立行政法人国立がん研究センターともがん啓発に関する協定を締結しており、日本を代表するがん医療・研究機関との協定締結は今回で二例目となります。

こうした取り組みを通じ、当社はがん保険のリーディングカンパニーとして、がんになっても安心できる社会の実現に向けて、今後がんに関する啓発活動を積極的に推進してまいります。